

連番	計画	実績	自己評価	7月1日での意見	対応状況
5	<p>オ 地域からの芸術に関連した要望を積極的に学生に公開し、デザイン等の公募に参加させることにより、地域社会の発展に貢献する意識を醸成する。</p>	<p><del>オ 地域からの芸術に関連した要望に対して、以下のように対応し、学生が地域社会の発展に貢献する意識を醸成した。</del></p> <p>オ 本学には、地域から様々な作品制作依頼が寄せられており、こうした依頼に学生が積極的に参加できるようにするため、これらの情報を学内に公開し、学内公募を行った。 多くの学生が主体的に依頼内容を理解し、制作を行い、応募することによって社会貢献を実体験し、地域社会の発展に貢献するという意識が醸成された。 具体的には、25年度の公募への応募件数は合計で46点(34名)であり、応募したもののうち、4件が採用されている。自分のデザインが地域社会において貢献できることを多数の学生が実体験として経験したものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田銀行2014年カレンダー表紙公募&lt;採用&gt; 応募4点(3名)</li> <li>・秋田テレビ開局45周年記念ロゴ公募&lt;採用&gt; 応募2点(2名)</li> <li>・秋田市南部市民サービスセンターロゴマーク公募&lt;採用&gt; 応募20点(11名)</li> <li>・湯沢市産なめこ販売パッケージラベルデザイン公募&lt;採用&gt; 応募20点(18名)</li> </ul> <p>また、中期計画にある「地域の課題に対し、デザイン的な視点による解決を提案するなど、地域社会の発展に貢献する教育」を授業として行うことで、学生に地域社会の課題を理解し、解決する意識を醸成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域対応演習：秋田県菓子工業組合青年部との共同によるオリジナル和菓子の試作(学生5名)</li> <li>・景観デザイン演習：新屋地区の活性化に向けたまちづくりプランの作成(学生2名)</li> <li>・美術の社会実践論(集中講義)：地域の課題や地域資源の活用方法に関する学生の意見発表(学生30名)</li> </ul>	IV	<p>何件の公募数が記載すべき。 ※大学に対する依頼で、学内公募であれば、誤解のないように表現方法を工夫して欲しい。(連番68と同じ指摘)</p>	<p>実績に文言を追記した。</p>
28	<p>(キ) 教職員を対象とした広報活動・入試戦略等の説明会を行い、全教職員による効果的な広報活動に繋げる。</p>	<p>(キ) 高校訪問や進学説明会時の広報活動・入試戦略等について、教職員を対象とした事前説明会(5月20日)、次年度対策説明会(3月13日)を行い、<del>共通理解を図った</del>。これにより、全教職員がオープンキャンパスや高校訪問において大学案内や入試要項などを説明する際、4年間の教育システムや5専攻の内容など本学の特徴について一貫性を持った広報活動を行うことができた。 (高校190校、予備校12校訪問。志願倍率H25年度3.94倍、H26年度4.04倍)</p>	III	<p>計画にある「広報活動に繋げる」と、実績にある「共通理解を図った」とはリンクしていないのではないか。</p>	<p>実績に文言を追記した。</p>

連番	計画	実績	自己評価	7月1日での意見	対応状況
32	<p>(ウ) 学生が価値の多様性を認め共有できる柔軟な思考を育む教育</p> <p>・学生が価値の多様性を認め共有できる柔軟な思考を育むため、フィールドワークや文化財・美術館・博物館・工房等の見学、対象地域の現地調査などを積極的に取り入れながら授業を行う。</p> <p>・外部講師によるワークショップやレクチャーを行うことで、多様で効果的な教育を行う。</p>	<p>(ウ) 学生が価値の多様性を認め共有できる柔軟な思考を育むため、<b>客員教授・客員研究員として外部講師を招聘し、以下のことを行った。</b></p> <p>○地元新屋の老舗店舗の見学などのフィールドワークによる「美術の社会実践」をはじめ、「古美術研究」や「工芸概論」、「現代芸術論A」等の授業の中で文化財や美術館等を見学するなどし、学生が多様な価値観に触れるための取り組みを行った。</p> <p>○客員教授等による特別講義等を以下のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽吉左衛門（客員研究員） 講義・講演：「型を破り、伝統を創る」（8月31日） 課外授業：鳥海山麓バスツアー（獅子ヶ鼻湿原、にかほ市横岡）<b>によりおいて、秋田の風土と民俗芸能視察を踏まえた粘土を用いたワークショップや体験発表、楽氏とのディスカッションを行うことによって、豊富な創作経験を持つ楽氏のものの方や考え方を学んだ。を行った。</b></li> <li>・会田誠（客員教授）（9月1日～3日） 課外授業：段ボールを使った祭壇彫刻制作「MONUMENT FOR NOTHING II」（9月9日～12日）、秋田県立近代美術館ツアー、上小阿仁アートプロジェクトのバスツアーを<b>行った。実施したほか、上小阿仁村の集落に出かけて、学生とのワークショップを行った。</b></li> <li>・高階秀爾（客員教授） 特別講義：「芸術のカー日本人の美意識」（11月27日）</li> <li>・荒川静香（客員教授） 特別講義：身体表現・芸術表現について本学の高嶺格准教授と対談形式で実施。市民が芸術・文化に触れる機会を創出するため、広く一般市民にも公開し、一般市民176名が参加した。（1月29日） クロッキー：荒川客員教授が県立スケート場でフィギュアスケートを100人の学生に披露し、<b>フィギュアスケートという異分野における身体表現や芸術表現への理解を深めるため、描く対象を短時間で捉えて描写するクロッキーの授業を行った。</b></li> </ul> <p>○受講した学生へのアンケートでは、「多角的に観ていくことの重要性を痛感した(楽)」「表現者としての目線が勉強になった(荒川)」などの回答があり、特別講義等が、ものづくりへの気づきや新たな視点を持つ契機となった。</p>	IV	<p>7月1日での意見</p> <p>①32と33は関連しており、32の中期計画、年度計画では「外部講師」とあるが、実績では「客員教授」と記載していただけない。</p> <p>②この項目の中期計画では、「学生が価値の多様性を認め共有できる柔軟な思考を育む」とあるので、特別講義の実績には、学生の反応も記載すべきでないか。</p> <p>③評価指標のない項目に対して、IV評価とした理由は何か。</p>	<p>対応状況</p> <p>①実績欄に文言を追記した。</p> <p>②指摘に従い、学生の反応をアンケートから抜粋し、記載した。</p> <p>③②の表記を持ってIVとした理由とする。</p>

連番	計画	実績	自己評価	7月1日での意見	対応状況
33	(ア) 客員教授が効果的な講義ができるように調整やサポートを行う。	<p>(ア) 専任教員や社会連携企画委員会と連携し、外部講師である客員教授・客員研究員の専門性を生かせる講義になるよう教員・事務局が調整・サポートを行った。</p> <p>○客員教授等による特別講義等を以下のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽吉左衛門（客員研究員） 講義・講演：「型を破り、伝統を創る」（8月31日） 課外授業：鳥海山麓バスツアー（獅子ヶ鼻湿原、にかほ市横岡）によりおいて、秋田の風土と民俗芸能視察を踏まえた粘土を用いたワークショップや体験発表、楽氏とのディスカッションを行うことによって、豊富な創作経験を持つ楽氏のもの見方や考え方を学んだ。を行った。</li> <li>・会田誠（客員教授）（9月1日～3日） 課外授業：段ボールを使った祭壇彫刻制作「MONUMENT FOR NOTHING II」（9月9日～12日）、秋田県立近代美術館ツアー、上小阿仁アートプロジェクトのバスツアーを行った。実施したほか、上小阿仁村の集落に出かけて、学生とのワークショップを行った。</li> <li>・高階秀爾（客員教授） 特別講義：「芸術のカー日本人の美意識」（11月27日）</li> <li>・荒川静香（客員教授） 特別講義：身体表現・芸術表現について本学の高嶺准教授と対談形式で実施。市民が芸術・文化に触れる機会を創出するため、広く一般市民にも公開し、一般市民176名が参加した。（1月29日） クロッキー：荒川客員教授が県立スケート場でフィギュアスケートを100人の学生に披露し、フィギュアスケートという異分野における身体表現や芸術表現への理解を深めるため、描く対象を短時間で捉えて描写するクロッキーの授業を行った。</li> </ul>	Ⅲ	32と33は関連しており、32の中期計画、年度計画では「外部講師」とあるが、実績では「客員教授」と記載してはいてわかりにくい。	実績に文言を追記した。
34	(イ) 学外の専門家を招聘するための調査を行う。	(イ) 新たな客員教授について調査を行い、広報キャンペーン等多数の活動で知られる箭内道彦氏を平成26年度に招聘することとした。	Ⅲ	客員教授を平成26年度に招聘するためには、平成25年度中に相手が決定して当然だ。（計画として「調査を行う」という書き方があいまいだったのではないかと）	修正なし

連番	計画	実績	自己評価	7月1日での意見	対応状況
40	<p>・前期と後期で学生アンケートによる授業評価を行い、満足度評価4.0以上を目指す。(5点満点) 【評価指標】・アンケートの満足度評価4.0以上(5点満点)</p>	<p><del>・「この授業をよく理解できたか」など5項目の内容の学生アンケートで、全科目で授業評価した。その結果、満足度評価は、全ての項目について、4.0(5点満点)を上回り、平均4.6であった。</del> ・学生アンケートによる授業評価を前期、後期の2回5項目の内容で行った。その結果、満足度評価は、全科目の全項目において、4.0(5点満点)を上回り、前期・後期の平均で4.6であった。 (前期:4.4、後期:4.7)</p>	III	<p>目標が4.0以上で実績が4.6であれば、年度計画を上回って実施しており、IV評価でないか。</p>	<p>実績に文言を追記した。</p>
47	<p>オ 学生の作品展示場所として、アトリエももさだやサテライトセンターを活用するとともに、後援会による補助などを含め、展示のための支援を行う。(短大に関しても準じる。)</p>	<p>オ 学生の作品展示場所として、集客が見込める秋田駅前のサテライトセンターや大学敷地内のアトリエももさだを無料で利用できるようにしたほか、以下の展示に対して後援会と連携し周知用ポスターやハガキの作成等に利用できるよう助成を行った。(大学生の場合、一人あたり1回4,000円の助成) その結果、サテライトセンター企画展示において、これまでの入学1年目の学生にはほとんど見られなかった大学1期生グループ展が多く開催されるなど、学生が自ら企画展示しようとする気運が高まった。</p> <p>○サテライトセンター企画展示等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短大生による展示「○△□展」(4月27日～5月12日)</li> <li>・短大生による展示「はじめまし展」(7月10日～15日)</li> <li>・大学1期生グループ展「アキビギナーズ2014」(1月1日～20日)</li> <li>・大学1期生グループ展「こしゃりました」(1月21日～2月3日)</li> <li>・大学1期生グループ展「秋・美男子展」(2月19日～3月16日)</li> </ul> <p>○アトリエももさだ企画展示等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美短卒業・修了制作優秀作品展(3月12日～6月9日)</li> <li>・美短卒業・修了制作優秀作品展(7月30～9月1日)</li> <li>・秋田公立美術大学 ビジュアルアーツ演習Ⅱ(3月12日～30日)</li> </ul>	IV	<p>数値目標がないので、適切な評価の判断が付かない。IV→IIIではないか。</p>	<p>実績に文言を追記した。</p>

連番	計画	実績	自己評価	7月1日での意見	対応状況
57	<p>(イ) 科学研究費等の外部研究資金の獲得に努める。そのため、教職員を対象とした科研費申請のための勉強会を開催し、科研費申請を積極的に行う。</p>	<p>科学研究費の申請を、数値目標である8件を超えて、16件行い、そのうち4件が採択された。また、科研費以外の外部資金についても5件申請を行い、うち3件が採択された。 そのほか、科研費勉強会を開催し、科研費申請の方法についての詳細や注意点を学んだ。</p> <p>(イ) 科学研究費等の外部研究資金の申請を行った。 ○科研費申請を16件行った。(内採択4件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H25年度科研費研究活動スタート支援：(独)日本学術振興会 落合里麻助手 910,000円(直接経費:700,000円、間接経費210,000円) 「江戸時代の駕籠—木部の技法・構造・材料の研究」</li> <li>・H26年度科研費基盤研究C：(独)日本学術振興会 天貝義教教授 780,000円(直接経費：600,000円、間接経費：180,000円) 「大正期日本における近代デザイン理念の形成：明治四十四年トリノ博参同と工芸振興運動」</li> <li>志邨匠子教授 650,000円(直接経費：500,000円、間接経費：150,000円) 「冷戦初期のアメリカにおける日本古美術展覧会についての調査研究」</li> <li>池亀直子准教授 1,300,000円(直接経費：1,000,000円、間接経費：300,000円) 「産業社会における天才、狂気、障害と芸術的才能をめぐる優生思想の比較思想史研究」</li> </ul> <p>○科研費以外の外部資金について、5件申請を行った。(採択数3件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度大学コンソーシアムあきた学術的研究プロジェクト：大学コンソーシアムあきた 島屋純晴教授(申請代表者)、今中隆介教授、長沢桂一准教授、大谷有花准教授(200,000円)</li> <li>・美術に関する調査研究の助成：公益財団法人鹿島美術財団 志邨匠子教授(500,000円)</li> <li>・花王芸術・科学財団芸術文化助成：花王芸術・科学財団 志邨匠子教授ほか8名(1,000,000円)</li> </ul> <p>◎科研費勉強会を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内勉強会(主催：科研費WG) 参加者20人 7月1日</li> <li>・科研費ワークショップ 参加者25人 8月29日 (主催：科研費WG、外部講師：鳴門教育大学大学院 村川雅弘教授)</li> <li>・平成25年度秋田大学科研費パワーアップセミナー(主催：秋田大学) 参加者7人 9月6日</li> </ul>	IV	<p>他の大学の申請数を数値目標にしているが、それは後出し数値ではないか。 ※実績欄において、「数値目標」は設定しなかったが、目安として〇〇程度を想定していた」といった趣旨を追加してはどうか(事務局案)</p>	<p>実績に文言を追記した。</p>

連番	計画	実績	自己評価	7月1日での意見	対応状況
60	(ア) 評価が確立されていない分野や研究に対する新たな評価のあり方について検討する。	(ア) 本学における「新たな芸術領域」についての評価の検討にあたっては、文部科学省が示した指針に添う方向で、本学の四つの基本理念に基づく挑戦的な研究を奨励する視点を生かす方法を検討した。 具体的には、教員の研究費の配分にあたり「学長プロジェクト研究費」の中に「競争的研究費」を設けて学内での公募を行った。公募にあたり「研究の目的が秋田公立美術大学の4つの基本理念と合致しているか」、「これまでの研究にはない特色や独創的な視点、萌芽的な要素を有しているか」を審査項目として設定し、教員が先端的な研究に意識を向けるようにするとともに、独創性などについて審査を行った。 その結果、新たな評価に基づき、「イギリス芸術教育思想における独創性と公共性」、「J R秋田駅西口駅前広場再開発計画をモデルとする基盤的調査・研究」の2件を採択した。	Ⅲ	【意見】 委員会説明で初めて内容を理解したので、抽象的でわかりにくい。もっとわかりやすい内容にすべき。	実績に文言を追記した。
64	(ア) 意匠登録等、研究成果の知的財産化に関する意匠権セミナーを開催する。	(ア) 本学の研究成果の知的財産化に関する将来的な制度構築を視野に、第一段階として意匠登録など知的財産への意識を高めるため、学生および教職員向けに意匠権セミナーを開講した。(7月8日) これは、対象者として学生と教職員向けに大学主催で開催したものであり、内容は意匠権の概要とその申請方法についてである。(約30名参加)	Ⅲ	連番64と67の違いを説明するため、それぞれの目的などを記載すべき。	実績に文言を追記した。
65	(1) 産学官連携事業を推進する。 ・産学官連携事業数 3件以上	(1) 産学官連携事業として、教員が中心となり学生とともに以下の5件の事業を行ったほか、2件の協定締結を行った。 ※産学又は産学官連携事業には、本学教員が中心となり(学生が参加する場合もあり)、大学外の団体と連携しながら行う事業を該当させており、「学生への公募」のみのものは対象外とした。  (連携事業) ※産学官又は産学連携事業として、授業とは別に教員が中心となり行った事業を掲載 ・第9回あきたガラスフェスタ2013(8月10日～10月13日)(教員、学生) ワークショップ形式での制作現場公開 ガラス作品展示即売会 吹きガラス、サンドキャスト等の作業体験 講演会、パネルディスカッション ・秋田市土産品開発プロジェクト商品パッケージデザイン制作(教員、学生) 学生が考案した3商品 ・「KAMIKOANIプロジェクト秋田2013」への企画・参加(教員、学生) ・県依頼によるがん予防啓発ポスター等の制作(教員、学生) ・陸上自衛隊第21普通科連隊依頼による識別帽の制作(教員、学生)  (協定) ・秋田市と連携協力協定書を締結した。(8月27日) ・仙北市と連携協力協定書を締結した。(10月29日)	Ⅲ	「がん予防啓発ポスター等の制作」は、連番68のデザイン等制作に入る内容でないか。	実績に文言を追記した。

連番	計画	実績	自己評価	7月1日での意見	対応状況
67	(3) 各種団体等が開催する研修会等へ積極的に参加し、情報入手に努めるとともに、職員のスキルアップを図る。	<del>(3) 意匠権に関する研修「知財管理の現状と課題」を開催し、教職員15名が参加した。(3月13日)</del>  (3) 美術・デザイン系大学が、社会貢献・産学官連携を推進するにあたっては、知的財産(意匠権)に関する知識が必要不可欠であることから、「知財管理の現状と課題」というテーマで外部講師による研修を本学で開催し、外部団体からの商品開発やデザイン等の依頼に対応できるよう、職員のスキルアップを図った。(3月13日開催、教職員15名参加)	III	連番64と67の違いを説明するため、それぞれの目的などを記載すべき。	実績に文言を追記した。
68	(4) 各種団体からの学生によるデザイン等の制作依頼に対応する。 (短大に関しても準備する。)	<del>(4) 学生に対するデザイン等の制作依頼に以下のとおり対応した。</del>  (4) 学生に対する地域からの作品制作依頼に対する学内公募を行い、学生が作品を制作する過程で、意匠権に対する意識を醸成した。 ・秋田銀行2014年カレンダー表紙学内公募<採用> ・秋田テレビ開局45周年記念ロゴ学内公募<採用> ・秋田市南部市民サービスセンターロゴマーク学内公募<採用> ・湯沢市産なめこ販売パッケージラベルシールデザイン学内公募<採用>	III	①連番6665の産学連携に入れる内容でないか。 ②「公募」との記載だが、実際は学内公募であるので、わかりやすい内容にすべき。	実績に文言を追記した。
74	(2) 教員の海外での作品発表や研究活動について学内の支援体制を整備する。	<del>(2) 教員の海外での作品発表や研究活動について、有給休職制度や職務免除などにより支援を行った。</del>  (2) 教員の海外での作品発表や研究活動について、就業規則の有給休職制度の適用範囲を広げるなど有給休職制度や職務免除などにより支援を行った。実績として、本学の教員がドイツでの研究、調査のために9か月間、有給休職制度を適用し、従事した。	III	(意見はなかったが、II評価とするか確認すべき)	実績に文言を追記した。

連番	計画	実績	自己評価	7月1日での意見	対応状況
88	<p>(1) 科研費など外部競争的研究資金について、事務局を中心に情報収集を行い、教員へ積極的に情報提供する。</p>	<p>(1) 科研費などの外部競争的研究資金に関する情報収集のため、他大学から講師を招聘し学内で科研費ワークショップを行ったほか、科研費勉強会を開催した。科研費勉強会および科研費ワークショップを開催した。また、学外の競争的研究資金に関する調査を行い、ポータル掲示板、学内ノーツ掲示板、インフォメーション(教員連絡用事務室)等で周知を15件行った。 その結果、科学研究費の申請数が、数値目標である8件を超えて、16件となり、そのうち4件が採択された。</p> <p>○科研費勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内勉強会(主催：科研費WG) 参加者20人 7月1日</li> <li>・科研費ワークショップ 参加者25人 8月29日 (主催：科研費WG、外部講師：鳴門教育大学大学院 村川雅弘教授)</li> <li>・平成25年度秋田大学科研費パワーアップセミナー(主催：秋田大学) 参加者7人 9月6日</li> </ul> <p>○科研費(採択4件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H25年度科研費研究活動スタート支援：(独)日本学術振興会 落合里麻助手 910,000円(直接経費：700,000円、間接経費210,000円)</li> <li>・H26年度科研費基盤研究C：(独)日本学術振興会 天貝義教教授 780,000円(直接経費：600,000円、間接経費：180,000円)</li> <li>志邨匠子教授 650,000円(直接経費：500,000円、間接経費：150,000円)</li> <li>池亀直子准教授 1,300,000円(直接経費：1,000,000円、間接経費：300,000円)</li> </ul>	IV	<p>指標がないので、適切な自己評価か判断できない。むしろ、平成25年度に実績ができることで、平成26年度以降にIV評価とするべき内容でないか。</p>	<p>実績に文言を追記した。</p>
100	<p>企業等による大学支援組織を発足させる。</p>	<p>2 大学支援組織として平成26年2月に地元団体・企業など約130の会員からなる民間団体「あきびネット」を発足させた。 (会員数133：法人113、個人20) なお、会員数の目標数値は設定していなかったものの、平成25年10月開催の発起人会では会員数を法人50会員程度を想定としていた。10月以降、各社を多数訪問し周知につとめた結果、これを大幅に上回る113法人の会員加入があり、2月には設立総会を開催したが、具体的な活動は平成26年度以降とした。 同団体の活動内容は「産学連携の推進」「インターンシップの受入れ」「奨学金制度の創設」「大学PR・作品展示スペースの提供」「会員・教職員・学生の情報交換会開催」「学内ガイダンス等への講師派遣」「大学祭等への物資提供」などの予定。</p>	III	<p>あきびネットの想定会員数は50との説明だったが、後出し数値であり評価の判断はできない。</p>	<p>実績に文言を追記するとともに自己評価をIIIに訂正した。</p>

連番	計画	実績	自己 評価	7月1日での意見	対応状況
	その他全体評価	①文章をわかりやすく訂正し、IV評価の実績報告を加えた		①全体的に文章がわかりづらい。 ②IV評価の実績報告の記載が甘い。	—